

第3回マチコミリサーチ 『災害に備えた取組について』

ドリームエリア株式会社は、無料の緊急連絡網ツール『マチコミメール』を利用している保護者の方々を対象に、『災害に備えた取組について』のアンケートを実施いたしました。

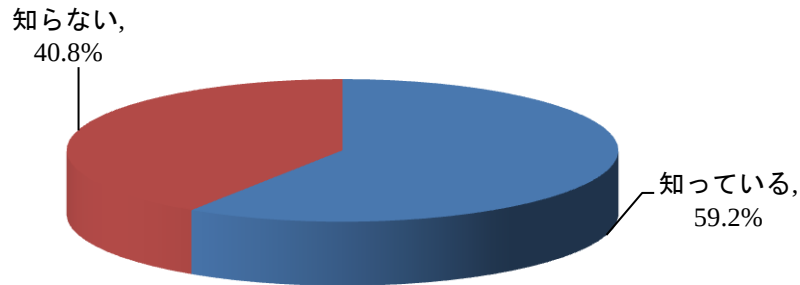
<調査概要>

調査期間	2018年3月22日(木)～3月27日(火)
調査方法	携帯サイト上のアンケートフォームにて回答
調査対象	全国の幼稚園・保育園・小学校・中学校・学童クラブのマチコミメール会員
調査対象数	1,564,563名
有効回答数	19,634件

<質問項目>

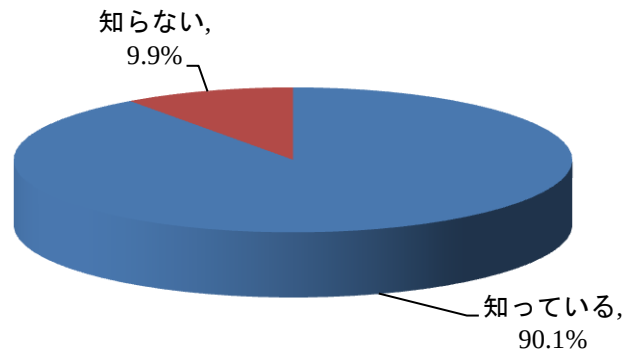
1	避難準備情報、避難勧告、避難指示の違いについて知っていますか？
2	自宅近くの避難場所を把握していますか？
3	勤務先などよく行く場所の近くの避難場所を把握していますか？
4	自宅から避難場所への避難経路を把握していますか？
5	万一の場合の避難に備えて、非常持ち出し品などを準備していますか？
6	地域の避難訓練や防災行事に参加したことはありますか？
7	災害情報をどの手段で取得していますか？（いくつでも）
8	家族での災害への備えとして、今重要だと思うことは何ですか。（自由記入）
9	あなたの年齢は？

質問1:避難準備情報、避難勧告、避難指示の違いについて知っていますか？



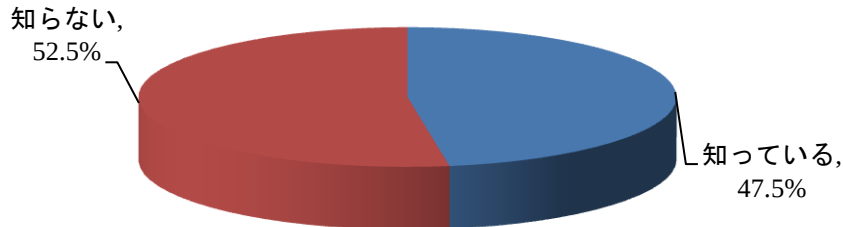
「知っている」と回答した方は全体の約6割。過半数以上の方が3種類の発令の違いについて知っていることが分かりました。一方で約4割の方が「知らない」と回答されています。災害時にニュースでよく耳にする言葉ではありますが実際の「自分のリスク」として認識するのは難しい場合もあるようです。普段は意識していなくても、地震や台風でいつ自分が被災するかはわかりません。これを機会にぜひ3つの違いを確認しておいてください。なお、避難情報はあくまで目安ですので、発令されていなくても早め早めの避難を心がけてください。

質問2:自宅近くの避難場所を把握していますか？



自宅近くの避難場所「知っている」は約9割にも上り、知らない方はごくわずかであることが分かりました。自宅近くの避難場所の把握は、事前に備えておける一つでもあります。把握していない方は、一日でも早く調べておくことをおすすめします。

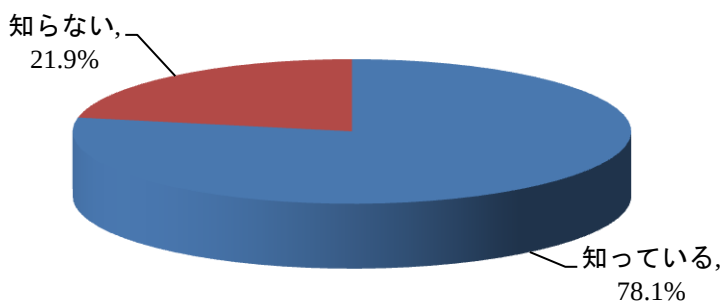
質問3: 勤務先などよく行く場所の近くの避難場所を把握していますか？



勤務先など、よく行く場所の近くの避難所については「知っている」が「知らない」ほぼ半々の結果となりました。東日本大震災では、平日の午後2時台に発生したことから帰宅困難者が多く発生するなど「外出時」の震災対策の必要性がクローズアップされました。

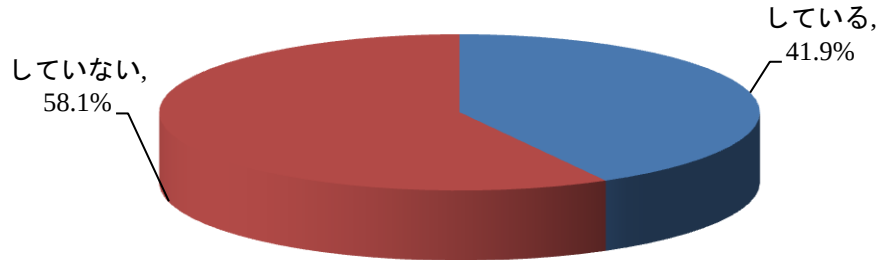
防災・危機管理ジャーナリストの渡辺 実さんによると、災害時に革靴やパンプスで瓦礫の散乱した道を歩く場合、せいぜい10キロが限界だそうです。スニーカーなど、歩きやすかつ安全性の高い履物を通勤先に置いておく、または通勤や遠方への外出時に使うなど、「足元の耐震化」を日頃から意識することが大切だと言います。

質問4: 自宅から避難場所への避難経路を把握していますか？



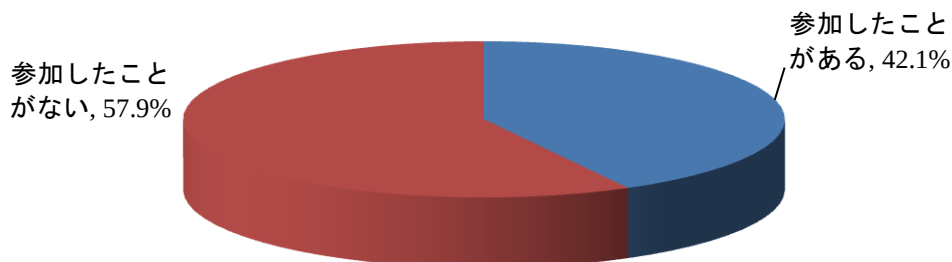
質問2の自宅近くの避難場所については、知っていると答えた方は約9割いました。しかし、避難経路までとなると、「知っている」は1割減少し、約8割という結果になりました。自宅近くの避難場所の把握は、事前に準備できることです。災害時はパニックになってしまうことも予想されますので、避難所の把握に加え、避難経路は事前に確認しておくといいでしょう。

質問5: 万一の場合の避難に備えて、非常持ち出し品などを準備していますか？



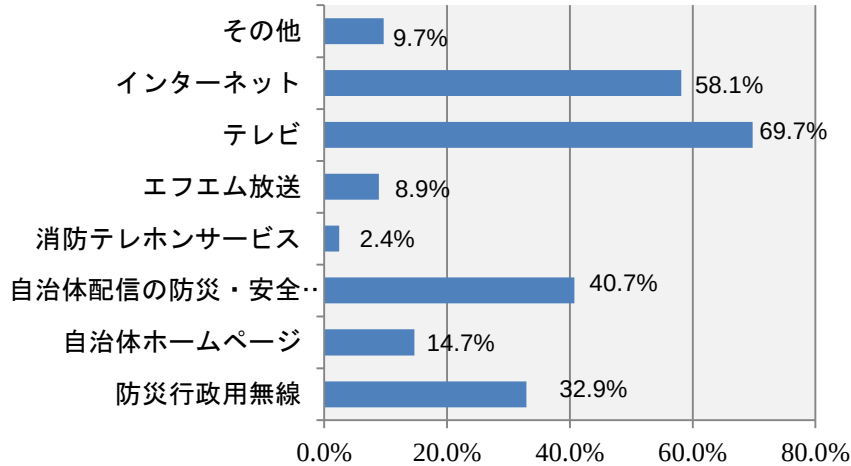
「している」と回答された方は41.9%で、「していない」の58.1%を大きく下回りました。備えあれば、憂いなし！頭ではわかってはいるものの、つい面倒だったり、揃えるものが多すぎたりで、防災対策が後回しになっている人も多いのではないのでしょうか。自宅に防災グッズを用意していても、外出先で被災することもあるかもしれません。もしものために、日ごろからバッグの中に防災用品を入れておくことも必要です。

質問6: 地域の避難訓練や防災行事に参加したことはありますか？



「参加したことがある」は約4割で過半数以下という結果になりました。東日本大震災直後は多くの人が災害に脅え、避難訓練を含めた事前準備の大切さを感じていたはずですが、あの災害から7年が経過しましたが、「参加したことがない」約6割という結果は危機意識が薄れてきている傾向にあるのかもしれません。避難訓練や防災行事へ参加することは、危機意識を高めることや、防災知識をつけることにも役立ちます。また、災害について話合うチャンスにもなりますので、是非ご家族で参加してみることをおすすめいたします。

質問7: 災害情報をどの手段で取得していますか？ (いくつでも)



多かったのは、「テレビ」と「インターネット」でいずれも過半数以上の方が情報収集のための手段として使用していることが分かりました。一方、消防テレホンサービスやエフエム放送を使用している方は全体の1割未満という結果になりました。音声だけによる情報よりも、実際に視覚を使って情報を入手するケースが多いようです。

東日本大震災直後では、通信インフラ等が多大な被害を受ける中、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）が情報伝達的手段として広く活用されました。近年では、防災情報などの緊急情報を市町村の公式Twitterアカウントでリアルタイムで発信するケースも増えていきますので、自宅や学校・職場などの市町村から発令される避難情報の入手方法（市町村のウェブサイト・公式Twitter・防災無線等）について確認しておくといいでしょう。

質問8:家族での災害への備えとして、今重要だと思うことは何ですか。(自由記入)

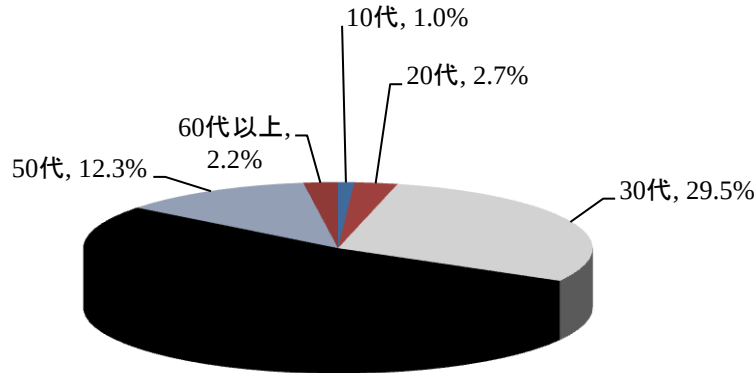
たくさんのご意見をいただきました！！以下、一部抜粋してご紹介いたします。 **回答数：11, 019件**

<お子さまへの防災教育と備え>

- ・共働きなので、子供の判断の手助けになることを教えておく。
- ・2～3日は自分たちで生活出来るくらいの水、食料。ベビーがいるのでミルク、オムツ。
- ・アレルギーの子供達が居るので、災害時の食事が困るので、切らさない様に備蓄をする事
- ・飲水や、子供の為にキャンプやアウトドアなどを、通して教育する災害と直結させても、おかしくない教育方針。大人の意識改革で子供の意識や体制も変わり生き方も、これからの子供には、基礎の基礎として災害に備えるお勉強会なんかも重要な教育になるし、いざと言う時の備えにもなりますね。やらないと。焚き火に使う火の扱い方や、薪を組む薪集めや、焚き火の仕方過ごし方まで、様々な、経験を積ませることが大事。生き抜く力を身に付けさせる。
- ・子供が小さいので、まず慌てず迅速に行動出来る為に非常用のバッグと長靴は玄関に常に置いてあります。
- ・自宅にソーラーパネル設置を希望しています。(飲み水にはあまり適していませんが、井戸はある)電気がなくては、全て何もできない生活になっています。ファンヒーターがあっても、灯油があっても、着火の電気がなければ暖取れませんし。情報を得るためのスマホも、充電できていなければ使えない。自宅にソーラーパネルがあればとおもいます。

<震災経験者からのご意見>

- ・命を守る事が、第1です。私は、阪神大震災を経験しました。その際に、お風呂の水をとっておいた為、とても助かりました。
- ・災害が起こったときに家族が同じ行動を取れるように話し合っておくこと。東日本大震災を実際に経験し被災した経験から学んだが、『命あればどうにかなる！』ので、まずは自分の命を優先するように話し合っておくこと。
- ・東日本大震災を仙台で経験したことで我が家では何より身の安全が一番、停電になると給油も出来なくなるので車のガソリンは常に満タリに近い状態、などetc我が家の家族に必要な備えは地震災害だけではなくいろいろな状況に対応できるように家族で常に話し合っておく準備しています。
- ・連絡手段や避難場所の確認。東日本大震災の時は家族が全員揃うのに2日かかりましたから、話し合いは必要かと思います。

質問9:あなたの年齢は？**まとめ**

東日本大震災以降、震災に関する意識が高まった方は多いかと思います。
今回のアンケート結果でも、約9割の方が自宅近くの避難所を把握していることから、防災意識の高さが伺えます。
しかし、勤務先など、よく行く場所の近くの避難所となると把握されている方は5割まで減少。
その他にも、非常持ち出し品を準備していないご家庭は約6割と対策が十分でない方も多く見受けられました。
このことから、「防災意識の高さ」は、必ずしも「災害時のために備える」といった行動に比例するわけではないということが分かりました。
災害から命を守るためには、行政からの働きかけだけではなく、一人ひとりが「自分が災害に遭う」といった切迫感や危機意識を持ち、自主的に備え、行動することが重要となります。
各ご家庭では、災害時はどこに避難するのか、家族が離れ離れになってしまったとき、どのような手段で連絡を取り合流するのか等、家族間で共有しておく必要があるでしょう。
また、日頃は通らない道を通して「避難所」へ行くのは、お子さまには困難です。
慣れさせておくためには、危険な場所、避難場所、逃げ方などを書き入れた防災マップを親子で作り、散歩を繰り返すことが有効かもしれません。
いつ起こるか分からないからこそ、特に判断できないであろうお子さまは、練習が必要ではないでしょうか。
最後に、先日報道番組でも取り上げていましたが、鎌倉市では、津波が到達した際にどのような被害が出るのかをCGで再現し、どのように避難するのが適切なのかを解説した「鎌倉で津波から生きのびる」という動画をYouTube(※3)に投稿しています。
この動画は、いつかやってくる巨大地震に備えるため、鎌倉市民以外にもおすすめできる内容と言えそうです。
この機会に危機意識を高め、ご家族で真剣に話し合ってみてはいかがでしょうか。

(※3) 出典：鎌倉で津波から生きのびる

<https://www.youtube.com/watch?v=sLQJjvmCZI8>

※東日本大震災の津波の場面が収められています